

2025  
ズバリ! 的中



古文

# 名城大学

入試問題本文が一致  
また問いの箇所・内容も複数的中

## 入試問題

2月1日実施 法・経営・経済・都市・人間・外国語学部  
二 問二、問七

## 河合塾

高3 スタート学期  
難関古文テスト・難関国公立大古文(論述対策)テスト  
第4講 問三 傍線部1・5、問五 傍線部4

二 嘉祥寺の僧都である海惠は、若かりし日に古社に参詣の約束をしていたが、病気がかかってしまった。海惠に関する次の文章を読み、後の問い(問一～問七)に答えなさい。

嘉祥寺僧都海惠といひける人の、いまだ若くて、病大事にて、限りなりけるころ、寝入りたる人<sup>1</sup>にはかに起きて、「そこなる文<sup>2</sup>」など取り入れぬぞと、厳し<sup>3</sup>言はれけれども、さる文なかりければ、うつならずおぼえて、前なる者ども、あきれあやしみけるに、自ら立ち走り、明かり障子をあけて、立文をとりて見れば、者ども、まことにふしきにおぼえて見る程に、これを広げて見て、しばしうち案じて、返事書きてさし置きて、又やがて寝入りにけり。

起き臥しもたやすからずなりたる人の、いかなりける事にかあやしみける程に、しばし寝入りて、汗おびたたく流れて起き上がりて、「ふしぎの夢を見たりつる」とて語られる。

「大きな狼の、群狼りの水干着たるが、立て文たる文を持ちて来つるを、人の寝り取り入れつるに、自<sup>4</sup>これを取りて見つれば、歌一首あり。

5 たのめつつこぬ年月をかさぬれば朽ちせぬ契りいかがむすばんとありつれば、御返事には、

心をばかけてそなたのむゆだすき七のやしろの玉のいがきに

と書きまらせつるなり。これは山王よりの御歌をたまはりて侍るなりと語られければ、前なる人、あさましくふしきに覚えて、「これは、ただ今、**I**にはべる事なり。これこそ御文よ。又、書かせ給へる御返事よ」と言ひければ、正念に住して、前なる文どもを広げて見けるに、**II** だがふ事なし。

その後、病息りにけり。いとふしきなり。

(一)今物語による

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

嘉祥寺の僧都海惠といひける人の、いまだ若くて、病大事にて、限りなりけるころ、寝入りたる人、にはかに起きて、「そこなる文、など取り入れぬぞと、きびしく言はれけれども、さる文なかりければ、うつならず覚えて、前なる者ども、あきれあやしみけるに、自ら立ち走り、明かり障子をあけて、たてふみをとりにて見れば、者ども、まことにふしきに覚えて見るほどに、これを広げて見て、しばしうち案じて、返事書きてさし置きて、また、やがて寝入りにけり。

起き臥しもたやすからずなりたる人の、いかなりける事にかあやしみけるほどに、しばし寝入りて、汗おびたたく流れて、起き上がりて、「ふしぎの夢を見たりつる」とて語られる。

「大きな狼の、群狼りの水干着たるが、たてふみたる文を持ちて来つるを、人の寝り取り入れつるに、自らこれを取りて見れば、歌一首あり。

A. たのめつつこぬ年月をかさぬれば、朽ちせぬ契りいかがむすばんとありつれば、御返事には、

心をばかけてそなたのむゆだすき七のやしろの玉のいがきに

と書きまらせつるなり。これは山王よりの御歌をたまはりて侍るなり」と語られければ、前なる人、あさましくふしきに覚えて、「これは、ただ今、うつに候ひつる事なり。これこそその御文よ。また書かせたまへ、御返事よ」と言ひければ、正念に住して、前なる文どもを広げて見けるに、<sup>5</sup>つめたがふ事なし。

その後、病息りにけり。いとふしきなり。